

児童文学界で注目の人気作家！

村上雅郁

Masafumi Murakami



小学生からおとなまで、一度読むとその世界に没入してしまう村上雅郁さんの作品。「子どもが集中して何度も読み返している」「心がゆさぶられ涙が止まらない」「心が浄化された」「読後感がさわやか」など高い評価を受けています。またたくさんの読者から映像化を希望する声も！リズム感の良い会話文と映像的な美しい描写による作品は1本の良質な映画を見終わったような印象を受けるのだと思います。デビュー作から5作品のご紹介です。

illustrations©Kashiwai

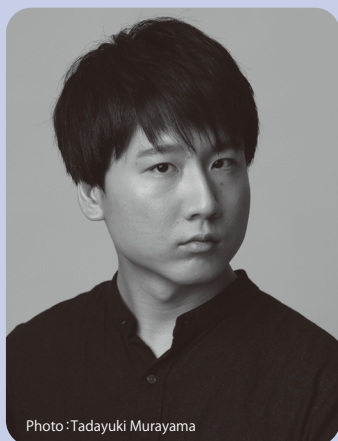


Photo: Tadayuki Murayama

村上雅郁 むらかみまさふみ

イラスト/村上雅郁



1991年生まれ。鎌倉市に育つ。2011年より本格的に児童文学の創作を始める。第2回フレーベル館ものがたり新人賞大賞受賞作『あの子の秘密』（「ハロー・マイ・フレンド」改題）にてデビュー。2020年、同作で第49回児童文芸新人賞を受賞。2022年、『りぼんちゃん』で第1回高校生が選ぶ掛川文学賞を受賞。ほかの作品に『キャンドル』、『きみの話を聞かせてくれよ』、『あなたのif』、『ショコラ・アソート あの子からの贈りもの』（すべてフレーベル館刊行）。



あの子の秘密

あなたがいる、だから心はひとりぼっちじゃない

- 絵 カシワイ
- 発刊年月 2019年12月
- 重版刷数 8刷
- キーワード イマジナリーフレンド、女の子同士の友情
- 受賞 第49回児童文芸新人賞
- Rights Sold 中国(出版翻訳権)、韓国(出版翻訳権、音声化権)



作品解説

他人に関心をもたず、他人をよせつけない小学6年生の小夜子は、見えない友だち、イマジナリーフレンドの黒猫と心のなかで会話することだけを支えにしていた。転校生の明來は、やたらテンションが高く小夜子につきまとうが、小夜子と黒猫は警戒する。明來はあっという間にクラスの子たちにとけこんで人気者になる。小夜子に黒猫という秘密があるのと同じように、明來は他人にふれるとその心が見えるという秘密をもっていた……。

小夜子と明來が交互に語る形式は物語の層に厚みを持たせ、語りの違いから物語を読むリズムも生まれます。また、それぞれの形で自分を守るために孤独を抱えていること、それぞれの秘密も読者にまっすぐ伝わってきます。

「イマジナリーフレンドを持つ少女がテレパスの少女に出会ったらどうなるか？」という思考実験からこの物語の着想を得た、と作者は語っています。テレパスだからふれるとその心に存在するイマジナリーフレンドの姿がみえる。小夜子が秘密にしている友だちの存在がバレることで、明來の秘密、他人の心が見えることがわかってしまうのです。そして、小夜子に明來と友だちになれ、と黒猫は消えてしまいます。イマジナリーフレンドを忘れることは子どもの成長の通過儀礼だと児童文学作品の多くに描かれます。しかし「小夜子が救われるための犠牲に黒猫がなつてはいけません。消えない魔法があってもいいじゃん、おとなになっても寄り添ってくれる妖精がいたっていいじゃん」と作者は本作を描きました。黒猫は消えないイマジナリーフレンドとして、この作品の大きなテーマのひとつとなっています。

物語のクライマックスで、明來は危険を顧みず小夜子の心の中へ飛びこみ、黒猫を見つめます。その心を見て、黒猫が負う深い傷を感じ、どうすることもできないと思ったとき、小夜子自身が明來とシンクロして、「もう、あなただけにあまえたりしない。私の世界はいくらでも広がっていく」と、自立することを小夜子は伝えます。そして、黒猫が自分といてくれたらうれしいとも。黒猫は明來といっしょに戻ってきます。あとき明來の心を見た黒猫は、彼女の背中もそっと押して、小夜子の家へ帰ります。他人の心が見えない私たちにも、相手の心を想像することはできます。友だちになることでおたがいを想い、心をわかりあうことができる。小夜子の言うように、「世界を広げていくことができる」のです。読後感はあたたかく、やさしく、「心はひとりぼっちじゃない」と満たされる作品です。

作者が語る登場人物紹介



くらき さよこ
倉木小夜子

ずいぶん昔から自分の中にいたキャラクターです。どこか現実になじめず、空想ばかりしている少女。結構スタンダードなキャラ造形だよな、と作者は思っています。あと「小夜子」って名前が好きです。あらゆる不思議は夜の暗闇から生まれるのだと思います。



みつ はし あくる
三橋明來

小夜子とは反対に、今どきの女の子をイメージしました。名前も、髪型も、しゃべり方も。「ぶー」がなんなのかは作者もよくわかりません。でも、ネガティブな気持ちを表す言葉のわりに語感もかわいいですし、よくないですか？ みなさんもぜひ使ってみてください。



くろねこ
黒猫

作中では「空想の友だち」ということになっていますが、作者としては「マイノリティ」を比喩したつもりです。そこにいないのに、いないことにされる存在。「あの子の秘密」は彼が本当の居場所を獲得する物語でもあるし、また、そうでなければいけなかったのです。

書評

“人間を定義の中に押し込めていない作者の人間を造形する自由さが、孤独であるのに孤独でない子どもたちの演出を成功させている”

——評者/加藤純子
[飛ぶ教室]2020 spring

“ミステリアスで、でもどこか温かく、最後まで読んでよかったと思える本なのでオススメです”

——評者/吉野万理子

“複雑な「心」の探索は、ミステリアスだがどこか優しい”

——評者/奥山 恵
[女性のひろば]2020年7月号

“自他の心の距離に悩む10代に、男女問わず共感される物語”

——評者/西山利佳
ジェンダーの窓から「こどもの本」2020年8月号



キャンドル

冷たく凧いでいたぼくの心にゆれる
小さくてもたしかな炎

- 装画 遠田志帆
- 発刊年月 2020年12月
- 重版刷数 4刷
- キーワード だれかの記憶の流入、暗闇にすむ怪物、女装男子、男の子同士の友情、絆
- Rights Sold 音声化権



制作・発売：株式会社ノワ様

リーディング
朗読ドラマ鋭意制作中!

穂村螢一 役 葉山翔太
皆本翔真 役 花江夏樹

心ゆさぶられる感動の傑作を、豪華なキャスト陣の音声でお届けする予定です。

2026年8月中旬～配信開始

作品概要

小1のとき、母を亡くして以来、この世にはどうしようもないことがある、と理解してしまった螢一。小6の2学期も終わるころ、螢一を突然おそったある子の記憶。しだいに明らかになる記憶の主、花が友だちの瑛を傷つけた出来事。親友の翔真と現実の花をさがすうちに、螢一は翔真を傷つけてきたことに気づく。冷たく凧いでいた螢一の心に小さくてもたしかな炎がともし……。螢一と翔真、花と瑛が織りなす、熱く切ない絆の物語。

Review

ページをめくるたび、優しいエールが聞こえてくる。友だちのこと、自分のこと。まちがってもどうにもならなくても、何度でも全力でぶつかっていきたい。螢一と翔真のように。
——書店関係者

後悔とかあきらめとか絶望とか、必ずどこかで経験する。元には戻せないけど先へ進むことはできるんだ。本当に大切な気持ちを伝える覚悟を持ってるって、きっと一番強くて尊い。
——書店関係者

りぼんちゃん

りぼんちゃんはさ、
オオカミといっしょに暮らしているんだよ

- 装画 早川世詩男
- 発刊年月 2021年7月
- 重版刷数 3刷
- キーワード 心理的虐待、物語の力、祈り
- 受賞 第1回高校生が選ぶ掛川文学賞



作品概要

同級生にも家族にも子ども扱いされるのが不満な小6の朱理。だが、転校生・理緒に出会い、世界が変わる。一方、理緒は誰にも言えない家族の問題を抱えていた。「りぼんちゃんはね、オオカミといっしょに暮らしているの」と、理緒は父親から言葉の暴力を受けていることを朱理に告白する。大切な友だちを守るために、朱理は〈わざわい〉という名のオオカミとどうたたかうのか。

Review

大人になった今の私は、あの頃の私が信じ、頼ることのできる大人になれているだろうか？ 今、つらい思いをしている子どもに、そして大人にも読んでもらいたい一冊。
——書店関係者

表面的な言葉で受け流してしまいそうなことを、しっかりと受け止めて自分なりに答えを出そうとする主人公、朱理。大人でもなかなか踏み込めない「家族の問題」に果敢に挑む姿は、がむしゃらながらカッコイイと思います。
——書店関係者

きみの話を聞かせてくれよ

吹き抜ける風が心をゆらす——
ぼくらは自分のままでいたいだけ、
そうあるようにありたいだけ。

試し読みはこちら



絵 カシワイ

発刊年月 2023年4月

重版刷数 7刷

キーワード 7つの短編連作、黒ネコ、青春群像劇

選定 こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財

トピック 2024年中学入試に20校以上で出題された中学受験最頻出作！



作品概要

親友とけんかしてひとりぼっちの^{りっか}六花、お菓子作りが趣味の虎之助、元気のない後輩を気にかける夏帆、悪友ふたりといたずらの計画を立てる^{あおい}葵生、不登校気味の妹を心配する^{みずみ}正樹、悩める新船中のカリスマ・^{うさ}羽紗、養護教諭の^{みずみ}三澄先生に心のうちを語る良輔……
7つのエピソードがきみの心に届く！

Review

絡まった糸がほどけていくような、心が温まって溶けていく感覚が
わきおこる読後感がたまらない。ひとりじゃないよ。

そしてどこまでもあなたは自由なんだってこと。伝わってほしい！

——書店関係者

この物語に出てくる子たちはどこにでもいるふつうの子。

多感な時期だからこそ誰もが抱くかもしれない思いを描いた
ストーリーが7つ。

短編で読みやすいのでぜひ学生さんに読んでもらいたい一冊です。

——書店関係者



かなたのif

第1回 未来屋アオハル文学賞大賞

ぼくらが夢見ることは、ぜんぶぜんぶ、ほんとうのこと——
夢と現実のあわいにゆれる、
ひと夏のガール・ミーツ・ガール！

試し読みはこちら



装画 げみ

発刊年月 2024年6月

重版刷数 4刷

キーワード 女の子の友情、可能世界論、虹のしずく、喪失と再生

トピック 小説すばる24年8月号書評、
小学館「小説丸」Webサイトにて「熱血新刊イタインタビュー」掲載

作品概要

中1の夏、秘密の場所で出会った^{かなた}香奈多と^{ここ}瑚子。
瑚子がつむぐ物語で、夢渡りの黒いネコのドコカは、
願いがかなう「虹のしずく」を探して、ひとりぼっ
ちの誰かの前に現れる——。その物語を分かち合い、
ふたりはおたがいをかけがえのない存在だと気づく。
物語をなぞるように重ねた「もしも」のはてで、ふ
たりが見つけた宝物とは——。

Review

壮大な世界観と巧妙なストーリー展開に驚かされ、登場人物たちの
みずみずしい言葉のやり取りに心打たれました。

徐々に「これは、小説でなければ!!」「小説ってすばらしいな」と
思わせられました。

——書店関係者